

企画展

植物たちの 生き残り術

どうして植物たちは
身を守る

2026
3.7(土) - 6.14(日)



埼玉
県立

自然の博物館

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1

TEL 0494-66-0404

<https://shizen.spec.ed.jp/>

埼玉県立自然の博物館

検索



X (旧Twitter)

開館時間 / 9:00 ~ 16:30 ※入館は閉館 30 分前まで

休館日 / 月曜日(祝日及び GW 期間中の月曜日は開館)
開館時間、休館日は変更の可能性があります。

観覧料 / 一般 200 円(120 円)、大学生・高校生 100 円(60 円)

※()内は 20 名以上の団体料金

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方と
その付添者 1 名は無料

令和7年度企画展

植物たちの生き残り術 どうして植物たちは身を守る

自由に動き回ることの出来ない植物は、動物や菌類などの天敵から身を守るため、様々な防御術をもっています。展示では、こうした植物たちの防御術の多様性や各々の特徴について、実物標本を使って詳しく紹介していきます。

どうやって身を守る？

トゲや硬い殻などで身を守る(物理防御)

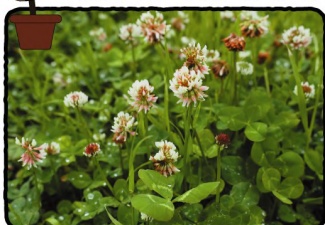


エビガイチゴ。茎や枝に、鋭いトゲと腺毛が密生する。

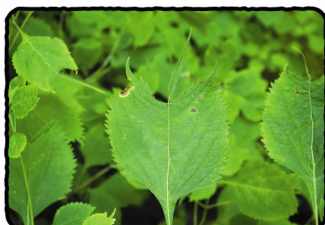


オニグルミの種子。厚くて硬い種皮を備えて、中の胚を守る。

色や形で身を守る(視覚防御)



シロツメクサ。葉の模様が輪郭をぼやけさせ、天敵に見つかりにくい。



カマバキヨシ。切れ込みのある葉がオトシブミ類の揺籃作りに利用されにくい。

毒・味・匂いで身を守る(化学防御)



トリカブトの仲間。植物全体に強い毒を持つため、天敵に食べられにくい。



オオバノイノモトソウ。独特な味と匂いを持つため、天敵に食べられにくい。

他の生物に助けてもらう(生物防御)



ヤバズエンドウ(左)とアカメガシワ(右)。葉や花の付け根から出す蜜をアリに与える代わりに、報酬として天敵のイモムシなどを撃退してもらう。



植物の天敵たち

植物を餌とする様々な天敵たちや、それらが食べた痕跡などを紹介します。



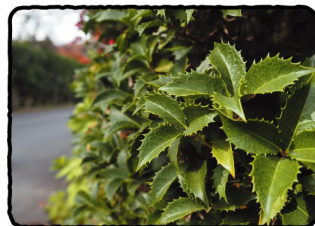
スジグミハモグリバエに潜食されたツルグミの葉。



ニホンジカに食べられたミヤマクマワラビの葉。

植物の防御を利用する人々

植物たちが獲得してきた防御術は、様々な方法で人々の暮らしに利用されています。



ヒガンバナ。毒があるため、モグラなどに地面を荒らされにくくなるとされる。



ヒイラギモクセイの石垣。葉にトゲがあるため、防犯効果が増す。

関連イベント

- 1 春の岩畳観察会 植物生存戦略編**
4月19日(日)10時～12時30分 場所：岩畳
申込みは当館HPまたは往復はがきにて受付(申込期間3月1日～3月31日)
- 2 ミュージアムトーク(申込不要)**
担当学芸員が展示の見どころを解説します
3月29日(日)・4月12日(日)・5月1日(金)・6月7日(日) 13時30分～14時



埼玉県立 自然の博物館

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1

TEL 0494-66-0404

埼玉県立自然の博物館



博物館HP

検索

